

2024年度日本政府(文部科学省)奨学金留学生選考試験

学科試験 問題

(日本語・日本文化研修留学生用)

日 本 語

注意 ☆ 試験時間は100分

☆ 答えは全て答案用紙に記入すること。

(2024)

日本語

国籍 Nationality		番号 No.		点数 Marks	
氏名 Name	(フルネームを書いて、姓に下線を引くこと。 Please print your full name, underlining your family name.)				

問題

I _____^{はい もっと てきとう}に入る 最 も 適 当 な も の を A ~ D の 中 か ら 一 つ 選 び な さ い。

(例) わたしは ^{にほんご}日本語 _____ ^{べんきょう}勉強 しています。

A が B を C に D へ

1 ^{せんげつ}先月、^{ねん}5年 _____ ^{かぞく あ}に家族と会えて、うれしかった。

A おき B ごと C つき D ぶり

2 この案に _____、^{しつもん}質問したいことがあります。

A ^{かん}関して B ^{さい}際して C よれば D わたって

3 ^{たなか}田中さん：「^{やまだ}山田さん、^{あま}甘いもの、^す好きだった _____。よかったら、これ、どうぞ。」

^{やまだ}山田さん：「ありがとう。」

A ことか B ってよ C っけ D っぽい

4 ^{やま み}きれいな山の見える ^{みずうみ}湖 でボートを _____。

A こいだ B こおった C ついだ D もぐった

5 あの人の ^{ひと はなし}話はいつも _____ があっておもしろい。

A イメージ B マスター C モーター D ユーモア

6 ^{でん き だい}電気代がもったいない _____、^{あつ へ や}暑い部屋でエアコンをつけずにいるのは ^{からだ わる}体に悪い。

A からいうと B からこそ C からといって D からには

7 その子はテレビの画面をじっと _____。

A ^み見つけていた B ^み見つめていた

C ^み見あわせていた D ^み見なれていた

8 _____ ^{いま}ものなら、今すぐにでもあの ^{ひと あ}人に ^い会いに行きたい。

A ^い行かない B ^い行く C ^い行ける D ^い行こう

- 9 かばんを_____駅^{えき}のベンチに忘れてきてしまった。
A うっかり B ぎっしり C ぐったり D こっそり
- 10 友だちの秘密^{ひみつ}を他の人^{ほか}に話した_____、友だちを怒^{おこ}らせてしまった。
A かいあって B かわりに C かと思^{おも}ったら D ばかりに
- 11 会社で上司の_____話を長々と聞かされて、うんざりした。
A 身の上 B 身の丈 C 身の回り D 身の元
- 12 司法試験の合格を目指して、毎日勉強に_____いる。
A あゆんで B かさんで C はげんで D めぐんで
- 13 私は機械に疎くてスマートフォンの簡単な操作さえできない。_____パソコンなんて使えるわけがない。
A あえて B いやに C まして D やけに
- 14 山田さんは留学の経験を生かして、外資_____の企業で働いている。
A 制 B 系 C 圏 D 派
- 15 しばらく考えた結果、今の仕事を辞めて自分の会社を立ち上げるという結論に_____。
A 至った B 束ねた C 練った D 果てた
- 16 仕事でミスをした後輩を注意したら、「私にはこの仕事は不向きなんです。」と_____謝りもしなかった。
A 食い止めて B 立ち直って C 突き止めて D 開き直って
- 17 国会議員_____者、自分の発言に責任を持たなければならない。
A ごとき B たる C なりの D ありき
- 18 伝えたいことはだいたい書いたので、あとはレポートとして_____を整えれば完成だ。
A 体裁 B 提示 C 裁量 D 提出

- 19 50キロ_____荷物を軽々と持ち上げるなんて、さすが田中さんだ。
 A からある B たりとも C ながらに D はしない
- 20 工事現場では、作業員の人たちが汗とほこり_____になって働いていた。
 A がてら B ずくめ C どおり D まみれ

Ⅱ _____とほぼ同じ^{おな ないよう}内容のもの、または、_____と最も^{もっと}関係^{かんけい}のあるものをA～D
 の中^{なか}から一つ^{ひと}選^{えら}びなさい。

(例) けさ コーヒーを のみました。

- A きょうの あさ
 B きょうの ゆうがた
 C きの中の あさ
 D きの中の ゆうがた

- 1 先^{せんしゅう}週^しの試合^{あい}はもう少^{すこ}しのところ^かで勝^かてなかった。
 A 怪^{あや}しかった B 惜^おしかった C 親^{した}しかった D 陰^{けわ}しかった
- 2 その調^{ちょう}査^さ結果^{けっか}は私^{わたし}の予^よ測^{そく}と同^{おな}じだった。
 A 一^{いっ}致^ちしていた B 一^{いっ}定^{てい}していた
 C 合^{ごう}格^{かく}していた D 合^{ごう}計^{けい}していた
- 3 ごみを出^だすときは、決^きめられた^{ふくろ}袋^いに入^いれて出^だしてください。
 A 可^か決^{けつ}の B 決^{けつてい}定の C 指^し示^じの D 指^{してい}定の
- 4 考^{かんが}えられるすべての方^{ほう}法^{ほう}を試^{ため}してみたが、うまくいかなかった。
 A 考^{かんが}えうる B 考^{かんが}えかける C 考^{かんが}えきる D 考^{かんが}えぬく
- 5 いろいろなイベントのプログラムを^{つく}作^{わたし}るのが私^しの仕^{ごと}事^{こと}だ。
 A 囲^{かこ}む B 組^くむ C 込^こむ D 積^つむ

6 その村の人口は徐々に減っていった。

- A いちいち B しばしば C たびたび D だんだん

7 あの人が来ないのには、何か理由があるに決まっている。

- A かのようだ B とは限らない C にすぎない D にちがいない

8 正直な気持ちを話してはじめて、お互いのことを理解できるものだ。

- A はな話してこそ B はな話すだけで C はな話すほど D はな話すまで

9 その映画が終わるか終わらないかのうちに、彼女は映画館を出て行った。

- A お終わってしばらくしてから B お終わるのを見とどけて
C お終わると同時に D お終わるずっとまえに

10 彼女は服が汚れるのも気にせず、泥だらけの子犬を抱きかかえた。

- A にかかわらず B のみならず C のもかまわず D にこたえて

11 朝から友だちの引っ越しを手伝っていたが、とても暑かったので、午後にはすっかりくたびれてしまった。

- A ねじって B ばてて C むしって D とけて

12 あの人はどうも相性が良くない。

- A 犬も食わない B 馬が合わない C 猿芝居だ D 猫に小判だ

13 台風は今も強い勢力を保ったまま、九州に接近している。

- A 依然 B 大方 C 格別 D 元来

14 あの二人は考え方に大きなギャップがある。

- A しきたり B はったり C へだたり D よわたり

15 スマート家電は以前より安くなったといっても、まだまだ気軽に購入できるものとは言えない。

- A とあいまって B ときたら
C ともなると D とはいえ

16 ここでの生活は、ときどき気詰まりに感じることもある。

- A 窮屈に B 厳密に C 質素に D 切実に

17 外国で暮らすとき、ことばを覚えること以上に大事なことは、その土地の文化を尊重することだ。

- A にそくして B にともなって C にひきかえ D にもまして

18 初めて日本に行ったときは、片言の日本語しか話せなかった。

- A ずうずうしい B すがすがしい C たどたどしい D なれなれしい

19 あの人はまだ第一線から退くような年齢ではない。

- A 引き受ける B 引き上げる C 引き止める D 引き延ばす

20 新しい増税政策は国民に必ずや不信感を与えることになるだろう。

- A 不信感を与えずにはおかない B 不信感を与えないものではない
C 不信感を与えるきらいがある D 不信感を与えるにあたらない

Ⅲ

_____のひらがなと同じ漢字で書くものを A～Dの中から一つ選びなさい。

(例) 漢字でかきます。

A スーパーでかい物をします。

B 今日はかよう日です。

C 今から図しょ館へ行きます。

D 本をよみます。

漢字で書きます。

A 買い物 B 火よう日 C 図書館 D 読みます

答え. C

1 この果物にはさまざまなビタミンが豊ふに含まれている。

A 子どもたちが岩から海にとび込んで遊んでいた。

B 商品はあちらのカウンターでお受けとりください。

C 車窓から見える景色は、変化にとんでいた。

D 犯人は走って追いかけた警官にとらえられた。

2 来週、近所のじん社で夏祭りが開かれる。

A 妹は私よりしん長が高い。

B このチームのコーチは、選手たちから厚いしん頼を得ている。

C この細い道を運転するときはしん経を使う。

D 今回の大雨は、農作物にしん刻な被害をもたらした。

3 昨日、ひさしぶりに高校のときの友だちに会った。

A 今の幸せな生活が永きゅうに続くかどうかはわからない。

B 心を落ち着かせるために呼きゅうを整えた。

C この辺りには高きゅうレストランが立ち並んでいる。

D どうして地きゅうは回っているのか、考えたことがありますか。

- 4 来月、出ちようで大阪に行くことになった。
- A 庭をはいて、落ち葉をかたづけた。
 - B ここにテントをはろう。
 - C 天気予報で、明日ははれると言っていたよ。
 - D 服の前と後ろを反対に着ていて、はずかしかった。
- 5 この学生は全ての科目ですぐれた成績を残した。
- A 子どものとき、家族でよくゆう園地に行った。
 - B 書類はすべてゆう送してください。
 - C スピーチ・コンテストでゆう勝できて、本当にうれしい。
 - D 50年前に二国間のゆう好関係が結ばれた。
- 6 大切にしていた茶碗のふちが欠けてしまった。
- A 父は野球が好きで、地元の野球チームを熱心にえんしている。
 - B 何かのえんがあるのか、私は仕事で山田さんに会うことがよくある。
 - C 私が利用している鉄道のえん線には有名な観光地が数多くある。
 - D 私の住んでいる村では祭りのあと、盛大なえん会が開かれる。
- 7 みんなが知っているあの鳴き声を出すのはおすの鳥だけです。
- A 山田さんはゆう福な家庭で大切にされて育った。
 - B 彼は自由を求めて戦い、国民的な英ゆうとなった。
 - C ゆう長に構えていると、最後は時間に追われることになる。
 - D 来月は仕事が落ち着いて時間のゆう通が利くけれど、今月は難しい。
- 8 ハトは平和の象ちようとして描かれることが多い。
- A 今の研究に関係があるので、近代文学の授業をちよう講している。
 - B 祖母は今年、富士山の登ちように挑戦するつもりようだ。
 - C 最近は通ちようではなく、アプリでお金を管理するようになった。
 - D 来月の研究会のときに会費をちよう収めます。

9 刃物で有名な町で包 ちょう を買った。

- A アンケートに回答してくださった方には500円分の商品券を進 てい します。
B 観光案内所の人、私の質問にとっても てい 寧に答えてくれた。
C 書類に誤りがある場合は、赤色のペンで てい 正してください。
D 犯人は取り押さえられたときに てい 抗していたが、すぐにおとなしくなった。

10 この建物は老 きゅう 化により、近く取り壊されることになった。

- A 漢字は く り返し書いて覚えるしかないのだろうか。
B 祖父が亡くなり、十分な孝行ができなかったことを く やんだ。
C 酒を く み交わしながら友人と語らうのは楽しい。
D 無人島に残っていた船は く ち果てていた。

Ⅳ 以下の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。答えはA～Dの中から最も適切なものを一つ選びなさい。

さて、読書に話を戻そう。日頃、本を読むことで、いろいろなものが頭の中にインプットされる。多くは「知識」というデータである。これを頭の倉庫に沢山ストックしている人が、いわゆる「知識人」とか「博学」などと呼ばれているようだ。

なんでも知っている人を、「歩く辞書」などと形容するように、覚えた知識をすぐに披露できれば、周囲から尊敬される。少なくとも、これまではそうだった。そういう人が「先生」と呼ばれ、教を乞う人々が集まったのである。

しかし、その辞書は、つまり本である。(1) 辞書は歩かない。生きていない。 だから、辞書を使う人が、言葉から調べなければならない。発音の順番で並んでいるので、少なくとも読み方を知っていれば、その意味を調べることができる。国語辞典や百科事典や英和辞典などがこれである(英語では、読み方ではなく、スペルを知っている必要がある)。

昔は、辞書というものが今ほど一般的ではなかっただろう。編纂することも難しい、印刷して安く配布する技術もなかった。だから、(2) 「歩く辞書」的な人が重宝された。

そもそも、頭の中に知識をインプットするのは何故だろう? どうして頭の中に入れないといけないのか。それは、咄嗟のときに辞書など引いていられなかったり、人にきくことができない環境であれば、頭にストックしている価値がある。今は、みんな

ながスマホを持^もっていて、なんでも手^て軽^{がる}に検^{けん}索^{さく}できるのだから、この価^か値^ちは下^さがって
いるだろう。

であれば、苦^く勞^{ろう}して覚^{おぼ}えなくても、ただ辞^じ書^{しょ}を買^かって持^もっていれば良^よいではないか、
という話^{はなし}になる。ネットに依^い存^{そん}している現^{げん}代^{だい}人^{じん}の多^{おほ}くが、(3) これに近^{ちか}い方^{ほう}針^{しん}で生^い
きているようにも見^みえてしまう。

しかし、そうではない。知^ち識^{しき}を頭^{あたま}の中^{なか}に入^いれる意^い味^みは、その知^ち識^{しき}を出^だし入^いれする
というだけではないのだ。頭^{あたま}の中^{なか}で考^{かん}えるときに、この知^ち識^{しき}が用^{もち}いられる。じっくりと
時^じ間^{かん}を考^{かん}えて考^{かん}えるならば、使^{つか}えるデ^でー^たがな^{ない}かと外^{がい}部^ぶの物^{もの}を参^{さん}照^{しやう}できるし、人^{ひと}
にきいたり議^ぎ論^{ろん}をすることもできるが、(4) 一^{ひと}人^りで頭^{あたま}を使^{つか}う場^ば合^{あい}には、そういつた外^{がい}部^ぶ
に頼^{たよ}れない。では、どん^{ひと}なとき^りに一^{ひと}人^りで頭^{あたま}を使^{つか}うだ^{つか}ろうか？

それは、「思^{おも}いつく」ときである。

ものごとを発^{はっ}想^{そう}するときは、自^じ分^{ぶん}の頭^{あたま}の中^{なか}からな^なにかが湧^わいてくる。これは、少^{すく}
くともイン^{いん}プ^ぷットではない。た^ただ、言^{こと}葉^はとしてす^そぐに外^だに出^でせるわけでもなく、アウ^{あう}ト
プ^ぷットの手^て前^{まえ}のよ^ような物^{もの}だ。面^{おも}白^{しろ}いアイ^あデ^いア^あが思^{おも}い浮^うか^かんだり、問^{もん}題^{だい}を解^{かい}決^{けつ}する系^{けい}口^{こう}
のよ^ような物^{もの}を思^{おも}いついたりする。このとき、ま^まったくゼ^ぜロの状^{じやう}態^{たい}から信^{しん}号^{ごう}が発^{はっ}生^{せい}
する、とは考^{かん}えられ^{ない}。そうでは^{なく}、現^{げん}在^{ざい}か過^か去^こにイン^{いん}プ^ぷットした^あ物^{もの}が、頭^{あたま}の中^{なか}
にあ^あって、そ^そこから、ど^どれか^{わす}とど^{あた}れかが結^うびつ^ういて、ふと新^{あたら}しい物^うの^うが生^うまれるので
ある。

一^{いっ}般^{ぱん}に、アイ^あデ^いア^あが豊^{ゆた}かな人^{ひと}というの^きは、な^{しめ}にご^きとにも興^{きやう}味^みを示^{しめ}す、好^{こう}奇^き心^{しん}旺^{おう}盛^{せい}な人^{ひと}
である^{おほ}ことが多^ひい。これは、日^ひ頃^{ごろ}からイン^{いん}プ^ぷットに積^せ極^{きよく}的^{てき}だとい^いうことだ。た^ただ、だ
からとい^いって、本^{ほん}を沢^{たく}山^{さん}読^よんでい^あれば新^{はっ}しい発^わ想^わが湧^わいてくるのか、とい^いうとどうも
それほ^{かん}ど簡^{かん}単^{たん}ではない。おそ^おらく、それく^{かん}らいのこ^{そん}とは、あ^ある程^{てい}度^ど長^{なが}く人^{じん}生^{せい}を歩^{あゆ}んでき
た人^{ひと}ならご存^{ぞん}じだ^だろう。

い^いずれに^いしても、い^いつでも検^{けん}索^{さく}できるのだからと頭^{あたま}の中^{なか}に入^いれず^いに^{ひと}いる人^{ひと}は、この
よ^ような発^{はっ}想^{そう}を^じし^{ぶん}ない。や^やはり、自^じ分^{ぶん}の知^ち識^{しき}、あ^ちる^{しき}いはその知^ち識^{しき}から自^じ身^{しん}が構^{こう}築^{ちく}した理^り屈^{くつ}、
とい^いった物^はの^うがあ^はって、初^はめ^じて生^いま^あれてくる物^あだ。そ^いうい^いう意^い味^みでは、頭^{あたま}の中^{なか}に入^い
れてやるこ^いとは意^い味^みがあ^ある。テ^てス^しトに出^でるからとか、知^ち識^{しき}を人^{ひと}に語^{かた}れるからとか、そ^そう
い^いった理^り由^{ゆう}以^い上^{じやう}に、頭^{あたま}の中^{なか}に入^いった知^ち識^{しき}は、重^{じゅう}要^{よう}な人^{にん}間^{げん}の能^の力^{りき}の^う一^いつ^{ひと}と^{ひと}なるのであ
る。

もりひろし どくしよ かち いちぶひやうき あらた
(森博嗣『読書の価値』より、一部表記を改めた)

問い 1 下線部 (1) 辞書は歩かない。生きていない。 とは、どのようなことを表現していますか。

- A 辞書の中には、あまり役に立つ知識が入っていないということ。
- B 辞書は、自分から人に知識をあたえてくれないということ。
- C 辞書は、人間と同じような歩き方をしないということ。
- D 辞書は、昔のことについての情報しか書かれていないということ。

問い 2 下線部 (2) 「歩く辞書」的な人 とは、どのような人ですか。

- A いつも辞書を持っていて、ほかの人のために辞書で調べてくれる人。
- B いろいろな場所に行って、ほかの人に知識をあたえてくれる人。
- C 知りたいことがあったときに、どの辞書を使えばよいかを教えてくれる人。
- D 知らないことについて質問すると、すぐにそのことについて教えてくれる人。

問い 3 下線部 (3) これに近い方針 とは、どのようなことですか。

- A インターネットで十分に調べるまでは、物事を完全に覚えたことにはならないと考えること。
- B 知識はインターネットの中にあるのだから、人間がインターネットで調べる必要はないと考えること。
- C 知識を頭に入れる必要はなく、知りたいときにインターネットで調べればよいと考えること。
- D ふだんからインターネットでたくさんのことを調べて、知識を頭に入れておくべきだと考えること。

問い 4 下線部 (4) 一人で頭を使う場合 について述べたものとして、合っているものはどれですか。

- A 新しいアイデアが最初から言葉になって頭にうかぶ。
- B すでに頭の中にあるいくつかの知識から新しい考えが生まれる。
- C ほかの人がすでに考えたことは、自分にとって役に立たない。
- D ほかの人と相談することによって、自分の考え方の特徴がわかる。

問い5 本文と内容が合っているものはどれですか。

- A 頭の中にあまり知識がない状態で新しいアイデアを思いつくのは、難しいことである。
- B 新しいことを考えるときは、自分一人で考えるのではなく、ほかの人と話し合ったほうがよい。
- C 自分自身のアイデアが大切だと考える人は、インターネットで調べることをあまりしない。
- D 知識をたくさん頭の中に入れることの最大の意味は、ほかの人にその知識を伝えられるということである。

V 以下の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。答えはA～Dの中から最も適切なものを一つ選びなさい。

(1) 大学というものが生まれたヨーロッパ中世の昔から現在に至るまで、大学は学問の場であり続けています。授業やカリキュラムはあくまで皆さんを学問の世界に導くためのきっかけや入り口にすぎず、その先にこそ味わい深く豊穡な知の領域が広がっていることを、ぜひ自分自身の学びによって体感してください。

学問という言葉はいささか堅苦しく響くかも知れませんが、しかし、どのような学問も、あなた自身とあなたを取り巻く世界を対象とするものであり、その意味であなたの興味や関心に何かしら結びついているはずです。細かく分かれた学問分野のいずれも、アプローチや方法論は様々に異なるものの、人間とは何か、人間の営みとはどういうものか、人間を取り巻く広大な自然界はどのような仕組みで成り立っているかを極めようとする探究心を出発点としています。学問とは知への欲求に取りつかれた幾多の先人の仕事の積み重ねの大きな実りであり、皆さんをそのような知的探求へとさし招くものなのです。

そもそも(2) 学びとは、何かの役に立てるという目的のためではなく、それ自体に意味や意義があるから行なうものだとは私は考えます。新たな知識を得ること、あることについてじっくり考えることの楽しさと面白さ、そのことを通して自分自身がわずかずつでも階梯を上り、一段高い認識の地平に立つことの喜びとでも言えばよいでしょうか。

「何かの役に立つから～する」という考え方に対して、私は常日頃から疑問を抱いてきました。逆に訊きたくなるのですが、役に立たないことはやる意味がないのか？ この考えを突き進めていった末に出てくるのが数値主義や効率至上主義です。もちろん数

値によって成果を測ることは大事ですし、物事をなるべく効率よく進めようという思考が人間の能力や文化・文明を発展させてきたことも否定するつもりはありません。しかし、数値や効率が自己目的化し、一人歩きをしたとき、それはしばしば人間の根幹、つまり人はなぜ、何のために生きるのかという意味そのものを突き崩す危険があるのではないのでしょうか。

そもそも、世の中では多くの事象について、本来の意味や意義と、とりあえずの目標や目的そして結果が取り違えられているような気がしてなりません。

「(3) 食事」を例として挙げましょう。

「人はなぜ、何のために食べるのか？」と言え、もちろんまずは生きてゆくための栄養・エネルギーを体内に取り込むことが究極の目的と考えられるでしょう。しかしながら、個人にとっては食べることの意味はそれだけに限定されないはずです。エネルギーを体内に取り込むことを突き詰めて合理化・効率化すれば、将来科学が大きく発展した場合、カプセルのようなものを何錠か飲めば、それで十分ということになるかも知れません。それによって料理をするという労力も、食事にかかる時間も、大幅に短縮されるわけですが、そんな未来が実現することを心の底から望む人間はまずいないでしょう。それはなぜか？

食べるという行為から、おいしい料理を味わうという要素がなくなれば、食事の時間は文字通り「味気ないもの」になり、私たちから生きる^{よろこ}喜びの幾分かは確実に失われます。それだけではなく、錠剤による効率的エネルギー摂取は家族や友人と食卓を囲み語らう貴重な時間をも奪うことになるでしょう。

これは一つの例にすぎませんが、何かを「味わう」という要素がなければ、私たちの人生から人間らしさは失われるのです。逆に、人間は「味わう」ために生きていると言ってもよいでしょう。

そして、さらに言えば、何かをしっかりと感じ、味わうためには、ある程度の時間の長さというものが必要になります。食の世界でも、ファストフード化の傾向に異を唱える「スローフード」という思想が出てきました。その考えにのっとるならば、食事が心身の栄養となるのは、「時間をかけて味わう」という行為がおのずともたらす結果なのです。

(4) こうした視点は、AIの機能が発達し、人工知能が人間の生の領域を様々に侵食しようとしている現代においてこそ、ますます重要になってくるはずです。味わうという行為のうちに発揮される感情の働きや情緒の^{じょうせい}醸成こそは、人間にあってAIにはけっして届かない領域だからです。そうした人間ならではの営みを代表するものとして食を例に挙げたわけですが、より広く人間の知的活動・学問全般を考えるうえでも、「味わい」という視点は大切になるでしょう。あなた自身に^{そな}具わったこの人間独自の能力を

どう育み、伸ばしていったらよいか、大学での学びの出発点において、そのことを少しでも考えてほしいと思います。

役に立つ／立たないということも、本来は長大な時間を視野におきながら測ってゆく必要があるでしょう。世の中の流行という現象を考えれば分かることですが、すぐにその効用が見え、誰にでも語ることでできる「役立つもの」は往々にして底が浅く、賞味期限も短い。長い時間をかけて、ようやく見えてくるものこそが、人間にとって真の栄養になるのです。

(山崎太郎「学びの海の羅針盤—関心を広げ、味わいを深める読書のすすめ」より、一部表記を改めた)

問い 1 下線部 (1) 大学 について述べた文として正しいものはどれですか。

- A 大学ができてから長い時間が経過し、大学の学問の場としての機能は次第に失われつつある。
- B 大学の授業やカリキュラムには、学問として学ぶべきことが全て含まれている。
- C 大学の授業やカリキュラムを出発点とし、自分で学ぶことで広い学問の世界が体感できる。
- D 大学はヨーロッパで生まれたので、ヨーロッパ以外のところにある大学は学問の場と呼ぶことができない。

問い 2 下線部 (2) 学び について述べた文として正しいものはどれですか。

- A 新たな知識を得ることを楽しいと思っているうちは、学んでいるとは言えない。
- B 大学での学びにおいては、より多くのことを短時間で覚える必要がある。
- C 学びとは、何かの役に立てるという目的のためだけにするものである。
- D 学びとは、学ぶことそのものに意味や意義があるから行うものである。

問い 3 下線部 (3) 食事 について述べた文として正しいものはどれですか。

- A おいしい料理を味わう機会がなくなると、人の生きる^{よろこ}びは完全に失われてしまう。
- B 個人にとって食事の意味は生きてゆくための栄養やエネルギーを体内に取り込むことに限定されない。
- C 食事がカプセルのようなものを何錠か飲むだけで終わるようになることを望んでいる人が多い。
- D 料理や食事にかかる時間を楽しいと思っている人はいないので、そのような時間は短縮されるべきである。

問い4 下線部(4) こうした視点 が示していることとして正しいものはどれですか。

- A 効率性よりも人間独自の要素を重視する視点。
- B 人間の営みを効率化しようとする合理的な視点。
- C 感覚的なものよりも客観的データを重視する視点。
- D 役に立つものを優先する功利主義的な視点。

問い5 本文の内容に合っているものはどれですか。

- A 効用がわかりやすい「役立つもの」のほとんどは奥深く、長い時間、学問の対象となりうる。
- B 数値によって成果を測ることや、物事を効率よく進めることは大事であり、今後も数値主義や効率至上主義を発展させていくべきである。
- C 大学の中で細かく分かれた分野はアプローチや方法論だけでなく、探究心を出発点としている点が共通している。
- D 私たちの人生において人間らしさを保つために、何かを「味わう」という要素が必要である。